

II 新型コロナウイルス感染拡大下における自然学校の現状と課題

1 はじめに

令和2年度から引き続き、感染リスクをできる限り回避するため、感染防止対策を講じつつ実施せざるを得なくなった本校での自然学校の現状と課題を利用後のアンケートから分析し、調査結果を今後の長期宿泊体験に生かしていくこととしました。

2 調査結果 ※調査対象の内訳は、表⑥参照。

(1) 本校での自然学校に関して(本年度)

ア 自然学校実施後の感想

(ア) 児童

「楽しかった」が90.5%で最も多く、「いろんな体験ができた」「友だちと協力できた」といった記述が多くありました(図4-1)。

また、自然学校でもっとしたかったことに対する質問では「いろいろな体験活動をしたかった」「友だちといっしょに過ごしたかった」といった声が多くありました。

(イ) 保護者

「よかった」が96.4%で最も多く、「普段できないこと、初めて経験する内容を体験できた」という理由が多くありました(図4-2)。

記述内容には「親元を長期間離れ、考えながら協力することに意味があると思う」という回答も見られました。

(ウ) 教員

自然学校実施後の児童の様子では、「周りのことを考えて行動するようになった」が128人で最も多く、続く順序は図4-3に示す通りとなりました。このような結果となったのは、多くの児童が自然学校で協調性や積極性、自信等を身に付け、身に付けた力を更にその後の学校・家庭生活に生かしているためと思われます。

以上のことから、新型コロナウイルス感染拡大下でも、本校で楽しみながら様々な体験活動に挑戦できたことが、児童・保護者の満足度を高める結果へつながったと考えられます。また、教員・保護者の回答から、多くの方が「自然学校は児童の成長にとって重要な機会であり、児童が様々な経験をするためには、ある程度の宿泊日数が必要である」と捉えられていることが分かります。

(2) 新型コロナウイルス感染症に関して

「不安があったかについて」の回答は、図5のとおりとなりました。「なかった」と回答した児童、保護者の割合が教員より高かったのは、利用校によって様々な対策(児童への指導、家庭での習慣づけの協力依頼、施設内の定期的な換気、座席配置の工夫等)が計画的に図られたことと、新型コロナウイルスに対する不安よりも自然学校への期待が高かったことが理由であると考えられます。

(3) 自然学校の望ましい期間(新型コロナウイルス感染症の影響がなかったと仮定して)

「4泊5日以上」及び「4泊5日」は、児童で86.2%、保護者で78.7%、教員で60.9%、「4泊5日未満」は、教員で34.1%、保護者で18.9%、児童で12.6%の順となりました(図6)。

これらの結果に加え、多くの保護者*と教員は、短期間での実施は、以前の4泊5日以上との期間と比べ、児童の成長の変化が顕著でないという感想を持っていることも分かりました。

今回の調査によって、自然学校推進事業は、「学習の場を教室から豊かな自然の中へ移し、長期宿泊体験を通して、『生きる力』を身に付ける」機会として多くの方から期待されていることを改めて認識することができました。

*以前に児童の兄姉が参加した経験がある方

今回は2つのテーマの概況を報告することとなりましたが、本校では「五感を使った自然にふれる体験活動の検証」については、実施したすべてのアクティビティの結果とともに各教科等との関連性についてまとめています。また、「新型コロナウイルス感染拡大下における自然学校の現状と課題」については、令和2年度の調査結果を含めて現状と課題を分析しています。

それぞれの詳細を兵庫県立南但馬自然学校 研究紀要 第16号(令和4年3月)に掲載していますので、是非、合わせてご覧いただくことができれば幸いです。(水野 是清、森本 裕紀、宿南 恵介)

表⑥ 調査対象の内訳

	児童	保護者	教員
対象校数(校)	60	55	60
回答数(人)	2,950	2,530	258

